朝鮮通信使の歴史から徳川家康の平和外交について解説した講演会
＝19日午後、静岡市清水区の興津生涯学習交流館

家康の平和外交解説

静岡で徳川みらい学会

朝鮮通信使題材に講演

徳川時代の歴史的意義を研究発信する徳川みらい学会は19日、本年度第2回講演会（同会、静岡商工会議所など主催、静岡新聞社・静岡放送後援）を静岡市清水区の興津生涯学習交流館で開いた。興津地区にゆかりの深い朝鮮通信使に焦点を当て、講師が徳川家康の平和外交を解説した。

講師は大妻女子大の上垣外憲一教授（比較文化学）と政治・外交ジャーナリストの原野城治さん。上垣外教授は、朝鮮出兵後の講和交渉を先導した家康が、儒教文化圏の朝鮮で最も重視される「礼」を尊重して友好関係を築いたことを評価した。国書を交わす「通信国」の関係が200年以上続いたことについて「貿易のみを行う通商国の中国やオランダとは重さがはるかに違う」と強調した。そして「家康の本拠地だった駿府は朝鮮の人にとっても重要な場所だったはず」と述べた。

原野さんは、近年の日韓関係の緊張について「感情的な議論を避けたために心理的な距離ができ、誤解の連鎖が生まれてきた」と説明。朝鮮通信使が道中で文化的交流を重ねたことに触れ、日韓両国もさらに交流を深める必要性を説いた。

講演会に先立って本年度の総会も行い、新たに子ども向けの企画展や小和田哲男静岡大名誉教授による連続講座の開催などを盛り込んだ本年度の事業計画を承認した。

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます